

外国語

◆【外国語】全国学力・学習状況調査における課題

令和元年度全国学力・学習状況調査（外国語）の教科に関する調査結果で指摘された課題は次のとおりである。

【聞くこと】話し手や書き手の意図をとらえ、適切に応じること。

【読むこと】書き手が最も伝えたいことをとらえ、主体的に自分の考えを示すこと。

【書くこと】基本的な語や文法事項等の知識を定着させ、それらを活用する。

【話すこと】即興でのやり取りや、相手の話に関連した質問や意見を述べること。

つまり、聞くこと・読むこと・書くこと・話すことの4領域においてのアウトプットが課題であった。上記の結果を踏まえて示された指導改善のポイントは次のとおりである。

【聞くこと】質問、指示、依頼、提案などを聞き、適切な応答をする活動を繰り返す。

【読むこと】大切な部分を読み取り、それについて意見交換させるなど、活動を工夫する。また、話の内容や書き手の意見などを批判的にとらえる能力を育成する。

【書くこと】文章構成の特徴を意識させた上で、「言い換えの手法」等を指導する。

【話すこと】生徒が話しやすいトピックを精選し、対話の継続・発展を意識した指導するとともに、準備時間を与えずに伝え合う活動を取り入れる。

また、令和元年度「英語教育実施状況調査」の結果によると、教師がデジタル教材等を活用した授業の割合は、小・中学校で9割を超えていた^[1]。一方で、授業中に児童生徒がICT機器を使用して活動する機会は少ないのが現状であった。上述された、令和元年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえると、ICT機器への興味関心を高めるために、児童生徒が授業中にICT機器を活用し学習する機会を増やす必要があると考える。

◆【外国語】Rimse東京懇談会の調査研究における課題の深掘り

令和元年度に実施した、Rimse東京懇談会の教員への質問紙調査の結果では、外国語のICT教育に関して、デジタル教材が有ると答えた割合が87%、デジタル教材が無いと答えた割合が13%であった。デジタル教材が有る場合の使用頻度は、「頻繁に使用している」（72%）と「時々使用している」（19%）を合わせて91%であった。また、使用されている教材は、「デジタル教科書」が85.3%、「映像教材」が36.4%、「プリント作成支援ソフト」が4.3%であった。一方、デジタル教材が無い理由については、「購入していない」が59.3%、「環境が整っていない」が51.9%であった。文部科学省がICTを活用した教育を推進していることを鑑みると、ICTに関する研修の充実や、学校のICT環境整備の加速に向けた取り組みが行われていることで、ICT活用への児童生徒の興味関心がさらに高まると推測される。

小学校外国語でデジタル教材の活用が効果的な学習内容は、「外国語を聞き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」（48.1%）と「積極的に聞こうとする」（41.6%）の2つであった（回答者数154人）。主な理由は、「図や音声や動画を使って説明しやすい」で、それぞれ68.9%（回答者数74人）と78.1%（回答者数64人）であった。中学校外国語でデジタル教材の活用が効果的な学習内容は9つあり（回答者数111人）、そのうち「英語を正しく音読することができる」が22.5%、「場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる」が18.9%であった。主な理由として、「図や音声や動画を使って説明しやすい」があげられており、それぞれ64.0%（回答者数25人）と60.0%（回答者数20人）であった。

上記であげられた、「外国語を聞き、外国語の基本的な表現に慣れ親しむ」や「場面や状況に応じて英語を適切に聞いて理解することができる」などの項目は、令和元年度の全国学力・学習状況調査で指摘された課題に関連している。次節では、これらの項目と、文部科学省の「外国語の指導におけるICTの活用について」^[2]で紹介されているICTを活用した授業事例を踏まえて指導方法を検討する。

◆【外国語】ICTを活用した指導アイデア例（外国語）

【個別学習】タブレット端末を使用した発音と会話練習

【活動例1：英単語や英語表現の発音練習】

タブレット端末を用いて、学習した単語等を繰り返し聞き、同じように発音する練習を繰り返させる。ある程度練習したら児童生徒自身の音声を録音させ、正確に発音できているかを確認させる。正確に発音できていない単語等は、再度練習して正しい発音を身につけさせる。

【活動例2：会話練習】

タブレット端末を用いてテキストの会話を聞きながら、会話の練習を繰り返しさせる。ある程度練習をしたら、最後に児童生徒自身の音声を録音させる。その後、録音した音声とテキストの音声を比較し、英語を正しく発音できているかを確認させる。ここでは、リピーティングの手法を取り入れて、強勢、イントネーション、区切りなどを意識しながら練習することで、英語の音の特徴に慣れさせる。また、この活動を通して会話のスピードに慣れさせるとともに、質問、指示、依頼、提案等の仕方と、それらに対する適切な応答の仕方にも慣れさせる。

【活動例3：会話練習】

タブレット端末を用いてテキストの会話を聞き、英語の音声の特徴を意識しながら会話を練習させる。その後、練習した会話を録音させ、音声を確認させる。正確に発音できていない部分があれば、再度練習させる。ここでは、正確に発音できていない表現等を理解し、何度も練習させることで、慣れない音への苦手意識を軽減する。

【ペア・グループワーク】タブレット端末を使用した発音と会話練習

【活動例4：単語の発音練習】

タブレット端末を用い、学習した単語等の発音練習をさせる。例えば、ペアやグループ内で学習した単語を発音した後、タブレット端末で音声を聞き答えを確認させる。

【活動例5：スキットの発表】

テキストの会話の一部を変えさせたり、付け加えさせたりし、会話を作成させる。役割を決め、イントネーションやジェスチャー、アイコンタクトなどを意識させながらも、楽しんで発表ができるように十分に練習させる。段階的に、メモなどを見なくても発表できるように準備していく。タブレット端末で録画しながら、作成した会話を発表させる。ペアまたはグループで録画した映像を視聴させ、正確に発音できていたか、ジェスチャーやアイコンタクトが自然に取り入れられていたかを確認させる。

[1] 文部科学省「令和元年度「英語教育実施状況調査」の結果について」https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1415043.htm

[2] 文部科学省「外国語の指導におけるICTの活用について」https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-000009772_13.pdf